

# 四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立四郷小学校

校長 上村 由美

## 1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ・ 学校は、保護者や地域の皆さんに一定の権限と責任を持って学校運営に参画していただきます。その中で、様々な意見を学校運営に反映させながら、地域に開かれ、信頼され、地域に支えられる学校づくりをめざします。
- ・ 四郷地区の子どもたちが、郷土を誇りとし健やかに成長していくために、学校・家庭・地域が向き合い、互いに協力しながらそれぞれの力を発揮することができる協議会の運営をめざします。

## 2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

四郷小学校では、平成22年から「くろがねもち協議会」という名称で、四日市版コミュニティスクール学校運営協議会の活動を行っています。

「歴史や文化を知る」「人々とふれあい、生きざまを見つめる」「災害や事故から自分の命を守る」といった「人」「伝統」「自然」の3つをキーワードに、地域人材などを活用した活動を充実させています。具体的には、次のとおりです。

#### <実践事例1>学習支援ボランティアの取組

3年生では、総合的な学習の時間に「四郷探索四郷のよさを知ろう」を行いました。

その单元の中で、四郷郷土資料保存会及び各地区の自治会長さんなどにお手伝いいただき、地域を案内していただきました。

四郷地区はたいへん歴史ある地域で、多くの神社やお寺があります。また、四日市市の近代産業発祥の地とも言われるほど、産業が盛んだった地域でもあります。子どもたちは、そのような地域の歴史などを地域の皆様の力をかりて学んでいます。



#### <実践事例2>図書ボランティアの取組

日頃から本の整理・修理や、読み聞かせをしていただいています。

学期に1回の「図書館まつり」期間中は、各学級にて読み聞かせを行いました。

また、図書室の掲示物は、季節にあわせて作成していただいています。掲示物の季節のメッセージは、図書ボランティアさんから子どもたちへのあたたかなメッセージとなっており、子どもたちは毎回楽しみにしている様子が見られます。



### <実践事例 3>交通ボランティアの取組

交通ボランティアの方々には、日々、子どもたちの登下校等を見守っていただいています。学校と連携をとりながら、必要に応じて安全やあいさつ指導も行っています。

1年生の生活科「安全に歩こうわたしたちの通学路」では、日々お世話になっている交通安全ボランティアの方々に来校いただき、通学路の歩き方や交通安全についてのお話を聞きました。その後ボランティアさんの見守り箇所ごとに分かれ、子どもたちと質疑応答のやりとりを通して交通安全について学びました。



### <実践事例 4>クラブボランティアの取組

クラブ活動では、伝統芸能、英語活動、グラウンドゴルフの3つのクラブを地域の方々にご指導いただいています。1年間6回という限られた回数ではありますが、子どもたちは楽しみにしています。

伝統芸能クラブでは、四郷地区に伝わる「大念仏」の演奏を教えてください。保存会の方々の根気よいご指導で、経験のない子どもは全く音の出せないものですが、少しずつ演奏ができるようになっていきます。英語クラブでは、外国語活動でもゲストティーチャーとしてお世話になっている方と本校職員とのチームティーチングで、楽しい活動を行っています。グラウンドゴルフでも、初めての経験する子どもたちに対して丁寧に指導していただいております、子どもたちが楽し



く活動する様子が見られます。

## (2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- ・ 学習支援ボランティアに教えていただく地域の歴史等については、千年以上前のこともあり、まさに教員だけでは教えることができない、地域の皆様の力をお借りしないとできない学びとなっています。
- ・ 新学習指導要領においては、学習の基盤となる力として言語能力の育成を掲げています。その言語能力の育成を支えるものとして、日々の読書週間を確立させることは重要であると考えます。図書ボランティアの方々には、読書週間を身に付ける学校の取組と連携して、スタンプラリーをしたり、読み聞かせをしたりして、積極的に活動していただいています。子どもたちの中には、図書ボランティアの方々とは仲良くなり、図書室に通う子もいます。
- ・ 子どもたちの登下校については、まだまだ改善していかなければならないところではありますが、大きな事故もなく登下校ができています。交通ボランティアの皆さんのおかげだと考えています。学校が行っているあいさつ指導についても、連携して取り組んでいただいています。その中の意見として、「ここ数年で見ると、年々、自分からあいさつができる子が増えてきた」などと、子どもたちの姿を評価していただいています。また、生活科「安全に歩こうわたしたちの通学路」では、「子どもの命を守りたい」というボランティアさんの熱い思いにも触れることができ、自分たちが地域の方々暖かく見守られていることに気づき、安全への意識と感謝の想いを高めることができました。
- ・ クラブボランティアについても、回数を重ねるごとに上達していく姿や、自分たちで準備や活動を進める姿を褒めていただいています。子どもたちも、地域の方々にご指導いただけることを楽しみにしています。
- ・ 実践事例としては挙げていませんが、環境整備ボランティアとして、学校の築山剪定、竹林整備、法面の除草など、様々な作業をしていただいています。そのおかげで、子どもたちは気持ちよく学校生活を送ることができています。



## 3 今後に向けて

地域の外部人材を学校教育に活かすことは、伝統文化の継承や地域の人

とのつながりを育むという大きな意義があります。子どもたちは地域の方から学ぶとともに、地域とのつながりを深め、地域を大切にする、また自分たちが住む歴史のある四郷地区を誇らしく思う気持ちを育んでいます。今後も、このような取組をたやさず、ボランティアさんの協力や委員の方からの意見や要望を活かし、さらに充実した学校生活を送れるように取り組みを進めていきたいと思えます。